

アドミッションセンター報告書（第11号）の刊行にあたって

アドミッションセンター長 西郡 大

アドミッションセンターの活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。アドミッションセンターは、入学者選抜の企画・広報・実施等の業務を行い、佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与することを目的として、2007年10月に発足しました。発足から12年がたち、皆様のご支援により活動が実績に結びついてまいりました。

佐賀大学では、高大接続改革を「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の1つに据え、先進的な入試改革に取り組んでいます。

まず、佐賀大学版CBTは、「基礎学力・学習力テスト」（理工学部と農学部の推薦入試I）、英語のスピーキングとリスニングの技能テスト（教育学部の英語分野：A0入試I）、実験動画の観察に基づく科学的な思考力を評価するテスト（理工学部の化学分野：A0入試I）、動画を題材とした総合問題（農学部の国際・地域マネジメントコース：A0入試I）を実施しています。また、経済学部の推薦入試I、芸術地域デザイン学部と医学部の編入学試験でも2022年度入試からCBTを導入します。大学入試におけるCBT活用は、本学での取り組みをきっかけに、他大学でも導入が進みつつあります。

次に、特色加点制度は、2021年度入試より、医学部を除くすべての学部の一般入試で導入が決定し、公表することができました。これにより、中期目標・計画を達成できる見通しです。特に、インターネット出願と連動した書類審査の仕組み（J-Bridge System）は、大学入試におけるICT化を先取りするものであり、一般入試における効率的な書類審査を実現しています。

最後に、継続・育成型高大連携カリキュラムは、「教師へのとびら」「科学へのとびら」「医療人へのとびら」「社会へのとびら」に加え、新たに「アートへのとびら」を開講し、全学部のとびらプロジェクトがそろいました。これは、中期計画の目標を上回る取り組みとなっています。

今年度もアドミッションセンターでは、様々なアンケート調査の分析、入試・教務データを用いた追跡調査等を行い、アドミッションセンター報告書としてまとめました。これらの資料やデータは、各学部の入試制度の改善や学生確保戦略を検討したり、自己点検評価の根拠資料などに資するものと考えておりますのでぜひご活用ください。また、入試制度、追跡調査、入試広報、高大連携活動などについて改革や改善を進める際には、本センターまでご相談ください。

令和2年度も、皆様には、一層のご支援、ご助言を頂きます様、お願い致します。

令和2年3月

目 次

1. 平成 31 年度一般入試志願者動向に関する分析	1
2. 平成 31 年度一般入試データの検証（合否入替り率と共分散比）	11
3. 平成 31 年度学部新入生アンケート調査分析結果	43
4. 平成 31 年度オープンキャンパス報告書	88
5. 平成 31 年度ジョイントセミナー参加者アンケート分析結果	111
6. 平成 27 年度入学者の追跡調査	143
7. 平成 31 年度高等学校対象広報活動報告	152
8. 平成 31 年度高校教員対象の入試説明会実績	185
9. 入試制度に関する検証・提案等	192
10. 大学入試研究ジャーナル掲載論文	218
11. アドミッションセンター専任教員活動実績	225
12. 平成 31 年度アドミッションセンター業務実績	236
13. 平成 30 年度自己点検・評価書	251